

ニュースガイド

- 2面 笹川科学研究助成対象に板倉さん橋川さん/今井さん柄澤さん最優秀賞/中川助教と3学生に感謝状/荒井主席研究員が宇宙飛行士と直接交信
3面 平成30年度予算案を承認
4面 新任紹介/大学案内2019年版が完成/クラブの活動状況

「はやぶさ2」講演会

PERC 津田 ISAS 准教授を招き

小惑星リュウグウに到達迫る



「宇宙工学への挑戦～はやぶさ2のすべて……」の講演会。左上は津田氏

「はやぶさ2」が6月21日～7月5日の間に目指す小惑星「リュウグウ」に到達する見通しになったことを受けて、惑星探査研究センター(PERC)は4月21日、宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙科学研究所(ISAS)の津田雄一准教授(はやぶさ2プロジェクトマネジャー)を特別講演者に招いて「宇宙工学への挑戦～はやぶさ2のすべて」を工学の視点から切り拓く」と題した講演会を開催した。

「はやぶさ2」は2014年12月3日に打ち上げられた。PERCは同プロジェクトにスタート当初から関わり、搭載されているほぼ全ての観測機器の開発と科学的検討に研究員が参加している。そうしたPERCの活動を多くの在学生に知ってもらう、さらに総合工学である宇宙工学を通して工学全般への見識と、「はやぶさ2」の実際を通してプロジェクトマネジメントについての理解を深めてもらうというのが講演会の狙い。会場の津田沼校舎2号館大教室では本学学生のほか、PERCのホームページやSNSなどで開催を知った一般市民や高校生など約1500人が熱心に耳を傾けた。津田准教授は東大大学院修士課程時代に挑戦し

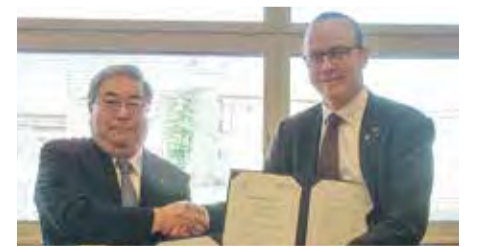
クールビズ実施中



5月1日～9月30日

ルンド大と交流協定

小宮仁学長は4月19日、スウェーデン南部スコーネ県ルンド市のルンド大学(工学部)を訪れ、本学との交流協定を締結した。ルンド大は1666年、同国で2番目に古く創設された名門公立大で、物理・生化学などで4人のノーベル賞受賞者を輩出している。本学との海外交流協定校はこれで17カ国・地域の37大学となった。(写真は握手を交わす小宮学長とルンド大のオワール工学部長)



方向・速度を割り出す...など。なかでも最大の山場は、爆薬で打ち出した金属製の弾丸を秒速2キロで衝突させて「リュウグウ」の表面にクレターを作り、内部の土などを採取する実験。この試料を地球に持ち帰ることができれば、人類が初めて手にする、太陽系の起源に迫る貴重な情報が得られると期待されている。この「リュウグウの内部をのぞく」窓を作る衝突装置(SCI)を筆頭に、クレターができる瞬間を観測する分離カメラ(DCAM3)▽レーザー高度計(LIDAR)▽含水鉱物を見つめる近赤外線分光計(NIRS3)▽光学航法カメラ(ONC)の開発と科学的検討にPERCが関わっている。

南鳥島に大量レアアース泥確認 海洋資源研など成果

容量350リットルの缶サットを手始めに、10立方メートルのキューブサットの世界初打ち上げ、太陽風を受け止めるソーラーセイルの宇宙空間での展開と、その技術を使った宇宙ヨット「イカロス」の宇宙空間全航行など、数々の「世界初」を成し遂げてきた。さらに小惑星「イトカワ」からの世界初のサンプリング(試料回収)に成功した「はやぶさ」初号機のプロジェクにも加わった。現在は外国人を含む科学者と技術者約600人を率いているという津田准教授は、講演でこれらの経験を披露した後、プロジェクトを成功させるマネジメントの要点を次のようにまとめた。

▽組織をコンパクトに保つ▽できる人、「やりたい」と思っている人との関わりを紹介した。

「はやぶさ2」は「リュウグウ」に到達した後、約1年半かけてさまざまな観測を行い、小惑星の姿を明らかにしていく。例えば高度を変えながら数キロまで接近してカメラで撮影し、立体地図を作り、重力や自転の

「はやぶさ2」は「リュウグウ」に到達した後、約1年半かけてさまざまな観測を行い、小惑星の姿を明らかにしていく。例えば高度を変えながら数キロまで接近してカメラで撮影し、立体地図を作り、重力や自転の

将来的には50倍以上の品位を目指すという、再生可能エネルギー技術やエレクトロニクス、医療技術分野などの最先端産業の発展に大きく貢献すると期待されている。成果は4月10日付の英科学誌サイエンスフィック・リポーツに掲載された。

電気自動車や携帯電話のモーター用磁石に使われるレアアース(希土類)が、小笠原諸島・南鳥島(東京都)周辺の排他的経済水域(EEZ)の海底に大量にあることが分かった、と千葉工業次世代海洋資源研究センター(ORCENGII加藤泰浩所長)、早稲田大、東京大、海洋研究開発機構などの研究グループが4月10日、発表した。

産業上重要なジンスプロシウムやテルビウム、ユウロピウム、イットリウムなどで総計1600万トンを超え世界需要の数百万分に相当するという。グループには東工大、神戸大、東亜建設工業(株)、太平洋セメント(株)も参加。2013～15年に海洋研究開発機構の調査船で南鳥島沖約2500平方キロの海域を探索した。

その結果、特に北西の一角に極めて高濃度のレアアースを含む泥(レアアース泥)の存在を確認するなど、対象海域が莫大なレアアース資源ポテンシャルを持つことを確認。資源分布を可視化し資源量を把握することに初めて成功した。さらに、レアアース濃集物の高効率な選鉱技術を検討し、確立したという。

レアアースは現在、生産量の8割を中国が占め

OPEN CAMPUS 2018 6.17 SUN 6:00-18:00 千葉工業大学



# 18年度 笹川科学研究助成

## 板倉さん、橋川さんの研究に

公益財団法人日本科学協会(大島美恵子会長)が運営する2018年度笹川科学研究助成に、板倉真博さん(機械サイエンス専攻修士2年、小澤俊平研究室)と橋川直人さん(生命科学専攻修士1年、島崎俊明研究室)の「半導体Si-Ge融体の表面張力に対する雰囲気酸素分圧の影響」が選ばれる。



助成が決まった板倉さん(左)と橋川さん

4月27日、東京・赤坂のANAインターコンチネンタルホテル東京で開かれた研究奨励の会で決定通知書が手渡された。2人の研究内容と感想は次の通り。

### ● 板倉 真博さん

1-p]chrysene誘導体の合成および物性評価が選ばれた。助成は若手の独創性・萌芽性を持ち発想・着眼点に新しい研究に与えられ、19年2月までの成果に上限100万円まで贈られる。

小澤研究室は国際宇宙ステーション(ISS)で表面張力を正確に計測する国際共同研究に参加。板倉さんはこの宇宙実験データを正しく取り扱うために、Si-Ge融体の表面張力に対する雰囲気酸素濃度の影響を明らかにする研究をしていく。研究が達成されれば、世界で初めて温度と雰囲気と同時に考慮した表面張力データが得られ、次世代デバイスの開発などに大きく貢献する

## 中川助教と3学生に感謝状

### 南房総市 塾通い助成業務をICTシステム化

南房総市は3月、情報ネットワーク(NS)学科の中川泰宏助教と同学科の学生3人に対し、学校外教育サービス利用助成事業の処理システムを無償で開発してくれたとして教育長感謝状を贈った。



感謝状を手にした(左から)中川助教、今井さん、橋川さん、板倉さん、薩摩さん

「期待に心えられる結果が得られるよう、より一層、研究に力を入れていきたいと思えます」

橋川 直人さん

標準研究の反応によって合成される化合物は、本来、芳香族化合物が持つ平面性を逸脱していることが予想され、それによって、次世代デバイスの開発などに大きく貢献する

## 宇宙飛行士と直接交信

### 荒井首席研究員 幕張で「千葉工大ウィーク」

「メテオのハードディスク(HDD)を交換していただき、ありがとうございます」という荒井朋子PERC首席研究員IIの写真中央IIのこやかな呼びかけに、「ISS(国際宇宙ステーション)の窓を使って地球に落ちていく流星を観測するメテオの研究、素晴らしいアイデアだと思います」と金井宣茂宇宙飛行士の爽やかな声が返ってくる。

GWさなかの5月2日、幕張新都心と地上4000mを周回する国際宇宙ステーションの間で、荒井さんと金井さんが初めて対話し、宇宙と地上の距離を感じさせないク



柄澤さん(左)と今井さん

## 今井さん柄澤さん最優秀賞

### WOWOW「ウーとワー」で「ARかくれんぼ」

テレビ有料衛星放送のWOWOWとFuture Tech Hub(日本初を誇るVR/AR特化型起業支援施設)は3月31〜4月1日、WOWOWの公式キャラクター「ウーとワー」を、XRの世界で活躍させてみよう!と呼び掛けたハッカソンを東京都中央区のFuture Tech Hubで開催。本学の今井駿汰さんと柄澤勇弥さん(いずれも情報ネットワーク学科4年)の2

人チームが発表した「AR技術を活用した新しい親子で可能な体験コンテンツの作成」が最優秀賞に選ばれ、トロフィーと賞金15万円を獲得した。ハッカソンはHack(コ

ンピューターで何かをやりたい)とラランを合わせた造語で、数人ずつのチームが短期でソフトウェアやサービスを共同開発し成果を競うイベント。「ウーとワー」は頭に耳のような触覚を載せた白と黒の「宇宙人」という想定。

映像感覚世界はAR(拡張現実)、VR(仮想現実)、MR(複合現実)と、これらを総称するXR(Extended Reality)と、次世代技術を模索している。今回はウーとワーがXRの世界でどう活躍できるのか、展開イメージを募集した。

審査では「子供も大人も楽しめる魅力的なコンテンツで完成度が高く、ウーとワーの新たな展開の可能性が感じられた」



山分庁舎で中川助教ら4人に、三幣貞夫教育長から感謝状が手渡された。システムは30年度から運用が開始されている。今井さんら学生は「実際に人の助けになるシステムを、自分たちの手で開発できたことがとてもうれしかった。学生時代に大きな体験ができた。中川助教は「技術の観点から地域に貢献しつつ、学生が自ら主体性を発揮して問題解決を図れる機会を得たことは本当に良かった。地域、学生、大学の3者にメリットがある活動なので、今後も必要に応じて継続していきたい」と語っている。

井宇宙飛行士にやってもらっている。そのお礼を言った後、荒井首席研究員が「宇宙から見た流星は、金井さんの目にはどのように映りましたか?」と問いかけると、金井宇宙飛行士は「メテオカメラが取り付けられている。窓は宇宙ステーションの床側にあるので、私たちは地球を見るときは上下逆さまになって、窓に頭を突っ込んで、あたかも見上げるような格好になっています。ですから流星も頭の上のほうで光っているのが見えるのです」

まさに宇宙飛行士ならではの実感のこもったコメント。

この「わくわく宇宙ウィーク」では、6日間の会期を通して「はやぶさ2」とPERCの関わりや、気球による成層圏での微生物・ウイルス捕獲実験、流星観測衛星SCUBE、「生命は宇宙から飛来したのか」という謎に迫る「赤い雨プロジェクト」など、PERCの研究プロジェクトをポスター展示。

さらに和田豊・機械電子創成工学科准教授(PERC非常勤上席研究員)が、子どもたち対象の手作りロケット教室(2日)や、「千葉工業大学の宇宙研究最前線」(6日)と題したトークショーを開催。「将来、宇宙関連のことがしたくなったら、ぜひ千葉工大を思い出して」と呼びかけるなど、千葉工大「W」全開のGWだった。



# 千葉工業大学 平成30年度予算

## 資金収支

(単位:円)

収入の部			
科目	平成30年度予算	平成29年度予算	差異
学生生徒等納付金収入	13,600,000,000	13,750,000,000	△ 150,000,000
手数料収入	300,000,000	354,800,000	△ 54,800,000
寄付金収入	95,000,000	100,500,000	△ 5,500,000
補助金収入	930,000,000	715,000,000	215,000,000
資産売却収入	0	90,200,000	△ 90,200,000
付随事業・収益事業収入	500,000,000	682,000,000	△ 182,000,000
受取利息・配当金収入	340,000,000	319,000,000	21,000,000
雑収入	300,000,000	273,500,000	26,500,000
前受金収入	4,900,000,000	4,907,700,000	△ 7,700,000
その他の収入	3,228,000,000	16,431,800,000	△ 13,203,800,000
資金収入調整勘定	△ 5,157,700,000	△ 5,211,300,000	53,600,000
前年度繰越支払資金	8,911,700,000	8,402,100,000	
収入の部合計	27,947,000,000	40,815,300,000	△ 12,868,300,000

支出の部			
科目	平成30年度予算	平成29年度予算	差異
人件費支出	7,243,000,000	7,178,000,000	65,000,000
教育研究経費支出	3,877,000,000	4,193,500,000	△ 316,500,000
管理経費支出	1,089,100,000	1,219,600,000	△ 130,500,000
施設関係支出	714,000,000	1,972,200,000	△ 1,258,200,000
設備関係支出	812,600,000	728,300,000	84,300,000
資産運用支出	4,000,000	14,081,700,000	△ 14,077,700,000
その他の支出	2,750,000,000	2,915,900,000	△ 165,900,000
[予備費]	200,000,000	0	200,000,000
資金支出調整勘定	△ 400,000,000	△ 385,600,000	△ 14,400,000
翌年度繰越支払資金	11,657,300,000	8,911,700,000	2,745,600,000
支出の部合計	27,947,000,000	40,815,300,000	△ 12,868,300,000

## 事業活動収支

(単位:円)

教育活動収支			
科目	平成30年度予算	平成29年度予算	差異
学生生徒等納付金	13,600,000,000	13,750,000,000	△ 150,000,000
手数料	300,000,000	354,800,000	△ 54,800,000
寄付金	95,000,000	100,700,000	△ 5,700,000
経常費等補助金	900,000,000	715,000,000	185,000,000
付随事業収入	500,000,000	682,000,000	△ 182,000,000
雑収入	300,000,000	272,600,000	27,400,000
教育活動収入計	15,695,000,000	15,875,100,000	△ 180,100,000
人件費	7,243,000,000	7,178,000,000	65,000,000
教育研究経費	6,604,500,000	6,936,900,000	△ 332,400,000
(内、減価償却額)	2,727,500,000	2,743,200,000	△ 15,700,000
管理経費	1,740,100,000	1,870,300,000	△ 130,200,000
(内、減価償却額)	651,000,000	670,700,000	△ 19,700,000
教育活動支出計	15,587,600,000	15,985,200,000	△ 397,600,000
教育活動収支差額	107,400,000	△ 110,100,000	217,500,000

教育活動外収支差額	340,000,000	319,000,000	21,000,000
経常収支差額	447,400,000	208,900,000	238,500,000
特別収支差額	28,000,000	174,300,000	△ 146,300,000

基本金組入前当年度収支差額	475,400,000	383,200,000	92,200,000
基本金組入額合計	△ 216,900,000	△ 1,338,300,000	1,121,400,000
当年度収支差額	258,500,000	△ 955,100,000	1,213,600,000
前年度繰越収支差額	△ 7,752,900,000	△ 6,797,800,000	△ 955,100,000
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 7,494,400,000	△ 7,752,900,000	258,500,000

事業活動収入計	16,065,000,000	16,388,700,000	△ 323,700,000
事業活動支出計	15,589,600,000	16,005,500,000	△ 415,900,000

①【教育活動収入】  
157.0億円(前年度158.8億円) 昨年度比1.8億円減  
学生納付金は前年度比微減の136.0億円とし、全体では1.8億円程度の減少を見込んでいます。

②【教育活動支出】  
155.9億円(前年度159.9億円) 昨年度比4.0億円減  
①人件費は、退職金が減少するが、研究員・兼務教員等の増加により7千万円の増加を見込む。

③【教育活動外収支】  
340.0億円(前年度319.0億円) 21.0億円増  
利息・配当金で3.4億円を見込む(昨年度比0.2億円増)。教育活動外支出の予定はない。

④【特別収支】  
28.0億円(前年度174.3億円) 146.3億円減  
特別収入は施設設備補助金で3千万円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

⑤【基本金組入前当年度収支差額】  
475.4億円(前年度383.2億円) 92.2億円増  
⑥【基本金組入額】  
216.9億円(前年度1,338.3億円) 1,121.4億円減  
⑦【基本金取崩額】  
0円(前年度0円) 0円増  
⑧【翌年度繰越収支差額】  
7,494.4億円(前年度7,752.9億円) 258.5億円増

⑨【管理経費】  
1,740.1億円(前年度1,870.3億円) 130.2億円減  
⑩【設備関係支出】  
812.6億円(前年度728.3億円) 84.3億円増  
⑪【資産運用支出】  
4.0億円(前年度14,081.7億円) 14,077.7億円減  
⑫【その他】  
2,750.0億円(前年度2,915.9億円) 165.9億円減

⑬【収入差額】  
107.4億円(前年度△110.1億円) 217.5億円増  
⑭【支出差額】  
△397.6億円(前年度△332.4億円) 65.2億円減  
⑮【経常収支差額】  
447.4億円(前年度208.9億円) 238.5億円増  
⑯【特別収支差額】  
28.0億円(前年度174.3億円) 146.3億円減  
⑰【基本金組入前当年度収支差額】  
475.4億円(前年度383.2億円) 92.2億円増  
⑱【基本金組入額】  
△216.9億円(前年度△1,338.3億円) 1,121.4億円増  
⑲【当年度収支差額】  
258.5億円(前年度△955.1億円) 1,213.6億円増  
⑳【前年度繰越収支差額】  
△7,752.9億円(前年度△6,797.8億円) 955.1億円減  
㉑【基本金取崩額】  
0円(前年度0円) 0円増  
㉒【翌年度繰越収支差額】  
△7,494.4億円(前年度△7,752.9億円) 258.5億円増

3月28日、東京カーデンプレスで開かれた本学理事会・評議員会で、平成30年度予算案が承認された。

高等教育を取り巻く環境

わが国では、平成30年を境に受験年齢である18歳人口が本格的に減少に転じ、2031年には現在の120万人前後から100万人を下回る事が想定されている。さらに、東京一極集中が進むことにより、地方経済が衰退し、地方の私立大学が破綻危機に陥ることも予想され、結果として全国の大学に影響をきたすとも言われている。

現在、私立大学の約4割が定員割れの状態にあり、財務省は定員割れが続く私立大学について、補助金の減額及び停止の検討を開始している。補助金の分配見直しにより経営改善や教育の質向上を目指す、教育の「成果」に応じた配分とする方針となっている。

これらの社会情勢の変化を踏まえ、大学の淘汰に打ち向かうには、新たな施策や教育環境の充実をはかることにより、大学のプランディング化を一層進めることが重要な時代と言える。

創立76年目を迎える今年度も引き続き、創立100年に向けての取り組みを積極的に行う。

未来ロボット技術研究センターでは、大成建設株式会社と共同で、自動で鉄筋結束する自律型鉄筋結束ロボット「J-Robo Rebar」を開発した。さらに、産学連携による技術開発を目的にパナソニック株式会社と連携し「パナソニック・千葉工業大学産学連携センター」を設立した。

惑星探査研究センターでは、ISS流星観測プロジェクトMETEOR「による流星群の測光・分光観測、来年度小惑星Ryuguに到着予定の探査機はやぶさ2の観測機器開発論文執筆および運用解析訓練実施、気球による成層圏微生物採取プロジェクト「Biopause」による放球実験実施、JAXA宇宙科学研究所の連携拠点として採択された、小惑星フェイトン探査ミッション「OSIM」の開発を軸に人材育成と探査機器開発基盤の構築に取り組みなど、積極的に活動している。また、火星への無人探査機打ち上げ計画を進めているアラブ首長国連邦(UAE)の2大学の宇宙科学教育を、本学が日本の大学グループを組織して支援することになった。

さらに、人工知能・ソフトウェア技術研究センター、国際金融研究センター及び次世代海洋資源研究センターの設置により先端研究の領域はさらに拡がりを見せている。

本学の一般入試志願者動向は、工学部改組、教育研究体制の充実、入試制度の改革、積極的な広報展開、キャンパス再開などの取り組みによって引き続き増加傾向にある。平成30年度入学生試験では過去最高の志願者数となり、志願者総数では全国10位となった。

事業計画

1 教育・研究

引き続き、教職協働により、教育・研究の質の向上を推進し、退学者・留年者の抑制、大学院進学者及び編入学生の増加に務める。

大学は、建学の精神の現れを目指し、教育及び研究の目的を踏まえ、「学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)を一貫性あるものとして策定し公表することが義務付けられている。

本学では、学部及び大学院において従前よりこれら3つのポリシーを定め、自己点検及び第三者評価を通じて教育の改革・改善に取り組んできたが、この3つのポリシーの一貫性については継続的に評価を行い、更に各ポリシーに教育研究活動が合致したものになっているかどうかの評価を行い、必要な場合はこれを定することによって全学的な体制の下でPDCAサイクルを機能させる。工学部の改組に伴い抜本的な見直しを行った新たな教育課程について、中央教育審議会答申等で示された学士力の養成、すなわち知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、総合力・創造力を養うことを念頭に、能動的学修(アクティブラーニング)やインターシップなど主体的な学びも多く取り入れて構成されており、教養教育・専門教育を通じて教育課程の体系化、単位の実質化を実現している。

教育方法の改善については、「FDフォーラム」、「FD講演会」を開催するなど、FD(ファカルティ・ディベロップメント)の継続的な推進を図る。さらに、SD(スタッフ・ディベロップメント)研修への教員参加を拡大し、教職協働による教育支援体制を拡充する。

また、グッドレクチャール賞やベストティーチャー賞といった教育業績表彰制度による評価や教育方法の講習会等も引き続き実施する。

平成30年度は、前年度仮運用を開始した教員ポインツシステムを正式運用し、教員の教育力・研究力・社会貢献力の評価に積極的に利用する。

指定校推薦入学制度の導入による工業高等専門学校との連携強化により、学部3年次の編入学生の数は2015年から3年間で3倍に増加している。

平成30年度予算の概要

①【教育活動収入】  
157.0億円(前年度158.8億円) 昨年度比1.8億円減  
学生納付金は前年度比微減の136.0億円とし、全体では1.8億円程度の減少を見込んでいます。

②【教育活動支出】  
155.9億円(前年度159.9億円) 昨年度比4.0億円減  
①人件費は、退職金が減少するが、研究員・兼務教員等の増加により7千万円の増加を見込む。

③【教育活動外収支】  
340.0億円(前年度319.0億円) 21.0億円増  
利息・配当金で3.4億円を見込む(昨年度比0.2億円増)。教育活動外支出の予定はない。

④【特別収支】  
28.0億円(前年度174.3億円) 146.3億円減  
特別収入は施設設備補助金で3千万円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

⑤【基本金組入前当年度収支差額】  
475.4億円(前年度383.2億円) 92.2億円増  
⑥【基本金組入額】  
216.9億円(前年度1,338.3億円) 1,121.4億円減  
⑦【基本金取崩額】  
0円(前年度0円) 0円増  
⑧【翌年度繰越収支差額】  
7,494.4億円(前年度7,752.9億円) 258.5億円増

# 平成30年度予算案を承認

研究の目的を踏まえ、「学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)を一貫性あるものとして策定し公表することが義務付けられている。

本学では、学部及び大学院において従前よりこれら3つのポリシーを定め、自己点検及び第三者評価を通じて教育の改革・改善に取り組んできたが、この3つのポリシーの一貫性については継続的に評価を行い、更に各ポリシーに教育研究活動が合致したものになっているかどうかの評価を行い、必要な場合はこれを定することによって全学的な体制の下でPDCAサイクルを機能させる。工学部の改組に伴い抜本的な見直しを行った新たな教育課程について、中央教育審議会答申等で示された学士力の養成、すなわち知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、総合力・創造力を養うことを念頭に、能動的学修(アクティブラーニング)やインターシップなど主体的な学びも多く取り入れて構成されており、教養教育・専門教育を通じて教育課程の体系化、単位の実質化を実現している。

仮も引き続き海外のトップクラスの大学との交流を推進する。さらに高大接続の教育連携についても引き続き検討し、具現化に向けた施策を実施する。

大学院においては、本学附属の各研究所等と連携した教育・研究体制を充実させることも、留学生も含めた学生数の増加を図る。

研究及び産学連携については、「学校法人千葉工業大学産学連携協議会」を通じて活動のほか、研究の活性化と産学連携の強化を推進する。加えて、安全保障貿易管理等についても管理体制の整備を進め、更に充実したコンプライアンス遵守体制の構築を進める。



# 新任紹介 (敬称略)

## 教員

**小笠原 秀人 教授**  
(プロジェクトマネジ  
メント学科)



みなさん優しくて、オープンな雰囲気がとてもよいです。リズムのよい生活を心がけ、成果と実績を着実に積み重ねていけるように、何事にも積極的に取り組みます。  
趣味はラグビー(観戦&時々プレーもします)。  
**亀谷 雄樹 准教授**  
(機械工学科)



教職員の方々が労をいとわず心よくご支援くださり、日々感謝の念に堪えません。今後は、学生がのびのびと学び、ぐんぐん能力を伸ばし、自信と誇りと喜びに満ちて卒業できるような、最善を尽くします。  
東京育ちですが、千葉が大好きです！  
**橋本 紳一 准教授**  
(都市環境工学科)



先生方が教育や進路指

導に非常に熱心です。早く職場環境に慣れ、教育・研究活動を通じて学生と共に成長できればと思います。よろしくお願ひします。  
趣味はスポーツ観戦。  
**藤井 浩光 准教授**  
(未来ロボティクス学科)



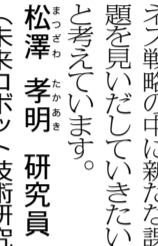
とにかくキャンパスがきれいです。この環境で、私学ならではの研究・教育の実現と楽しい研究室づくりに努めたいと思います。  
趣味は手拭い収集。  
**齊藤 史哲 准教授**  
(知能メディア工学科)



キャンパスがきれいで、先進的な印象を受け



職員の方々が皆親切で、学生の皆さんも礼儀正しい事や研究施設がとても充実しているのを感じています。  
ファイナンスは大きな広がりを持つ研究分野です。データ分析手法を活用して、今まで常識だと思われていた政策やビジネス戦略の中に新たな課題を見だしていきたいと考えています。  
**松澤 孝明 研究員**  
(未来ロボット技術研究センター)



古田所長をはじめ、と



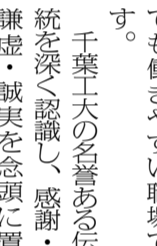
ました。真面目な学生が多いのも印象的です。今後は研究・教育を通じて、学生の成長や大学の発展に少しでも貢献できればと考えております。  
趣味は野球。  
**小松原 洋 上席研究員**  
(国際金融研究センター)



職員の方々が個性豊かで、一人一人が個性豊かである。時に1つの大きな仕事に対して全員がそれぞれの特色を生かし、歯車のように機能し対処していく、そんな職場です。1日も早く仕事を覚え、大学のため、学生のために職務に励みたいと思ひます！  
**齋藤 幹 事務職員**  
(入試広報課)



一人一人が個性豊か



も個人的な方が多いですが、皆さん優しくとても楽しい職場です。小さい頃からロボットに携わったので、これからも頑張りたいと思ひます。  
趣味はバイク、電子工作。  
**齋藤 幹 事務職員**  
(入試広報課)

一人一人が個性豊か

## 大学案内 2019年版が完成



千葉工業大学の最新情報を掲載した「2019大学案内」が出来上がった写真。

千葉工大が「宇宙兄弟」とコラボして4年目。宇宙飛行士を目指す主人公や仲間の姿を通じて

て、学生たちに夢に向かって挑戦する大切さを伝えたいという想いが込められ、インパクトのある表紙となっている。

CIITの支援力、挑戦力、研究力とさまざまなコンテンツをそろえた大学紹介▽教育内容▽施設▽キャンパスライフ案内▽クラブの紹介——と盛りだくさん。希望者に無料で配布する。

## クラブの活動状況

文化会	期間	大会・発表会名
吹奏楽部	4/1	入学式
写真部	4/15、22、29	新入生歓迎撮影会
フィッシャークラブ	4/22	大会練習
電子工学研究会	4/18、19	テクノフロンティア
電気研究部	4/28、29	第60回ALL JAコンテスト
ソフトメディア研究会	4/29	音系・メディアミックス同人即売会M3
体育会	期間	大会・発表会名
ウインドサーフィン部	5/13	第21回 Himeno Cup 2018
空手道部	4/29、30、5/5	第46回千葉県空手道選手権大会、第44回千葉県空手道選手権大会、東日本大学空手道選手権大会 団体戦
弓道部	5/3~5/4	千葉県学生弓道選手権大会、第26回関東学生弓道選手権春季トーナメント大会
剣道部	5/5	練習試合
卓球部	5/5、6、26、27	平成30年度春季関東学生卓球リーグ 4部Cブロック(男子)、4部Aブロック(女子)
軟式庭球部	5/12、13	関東学生ソフトテニス春季リーグ戦
二輪部	4/29、30	新歓ラン
バドミントン部	4/28、29、30~5/3	関東大学春季リーグ戦
バレーボール部	4/22~5/13	春期関東大学バレーボールリーグ戦
フォークダンス部	5/20	新歓パーティー
よさこいソーラン風神部	5/5	第17回かずさ YOSAKOI 木更津舞尊
ラグビー部	4/29	公式戦
陸上競技部	4/21、22、5/4	第262回日本体育大学長距離競技会、第2回順天堂大学競技会

上記クラブのほか、多くのクラブが課外活動に励んでいます。定期的ないろいろなクラブの活動状況をお知らせしています。

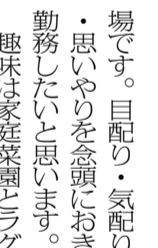
趣味はギター弾き語り、映画鑑賞。  
**征矢 慎一郎 警備員**  
(総務部)



う前進していきたいと思ひます。  
**末吉 健一 警備員**  
(学生センター)



場です。目配り・気配り・思いやりを念頭におき勤務したいと思ひます。  
趣味は家庭菜園とラグビー。  
**井藤 博士 警備員**  
(学生センター)



緑豊かな構内で、先輩方はとても明るく、分からないことがあれば懇切丁寧に教えてくださることも働きやすい職場です。  
趣味はバイク、電子工作。  
**関家 伸 警備員**  
(学生センター)

千葉工大の名譽ある伝統を深く認識し、感謝・謙虚・誠実を念頭に置き、早く戦力になれるよう努めます。  
**関家 伸 警備員**  
(学生センター)

毎日、1・2年生の明るく爽やかな声が聞こえる新習志野校舎で警備にあたります。一生懸命頑張りますので、よろしくお願ひします。  
趣味は野球観戦。  
**関家 伸 警備員**  
(学生センター)

本紙4月15日号1面「入学式」の記事で、ノーベル化学賞受賞者の「福井健一博士」とあるのは「福井謙一博士」の誤りでした。おわびして訂正します。

## PPA



地区懇談会では、新淵、長岡、長野、仙台、宇都宮の五ヶ所に参加させて頂きました。地区の保護者、同窓会の皆様と意見交換できたことは、私の人生にとって大きなプラスとなりました。千葉工大の勢いを改めて実感する思いでもありました。グローバル化が益々進展する中で、日本の大学の教育のあり方について問われている時代だと思ひます。その中で、宇宙やロボットに関する開発は一つに代わらずに平熱が高い子どもは時の経過を遅く感じる傾向があるそう。また、ワクワクや待ち遠しいことが多いと、時の流れが遅く感じる説もあるようだ。思い返すと、昔はクリスマスから正月までが待ち遠しかったのに、今では間髪入れずにやってくる感覚があり、妙に共感した。社会人5年目の私はまだまだ「未熟なこわっぱ」だが時間の流れを早く感じる程度には大人になっているようだ。まさに光陰矢の如し。いかに仕事にやりがいを感じ充実しても、あっとい間に5年間が経ったように、これからの時の経過が加速していくのであれば、一日一日を大切に目的をもって過ごす。悲観することはない。物理的な時間の流れは普遍だ。それが必死で基礎代謝をあげよう。  
**入試広報課 海老根 克磨**

## 四季雑感



「大人になると一年間が短く感じる」小学生の時、担任の先生が言っていた言葉を何気なく覚えていて、ふと思ひ出す。振り返ると、もう5月に入っていた。実際、子どもと大人では心理的に感じる時間の経過に差があるらしく、その理由の

## 編集だより



私事で恐縮だが、5月15日、本学の開学記念日に永年勤続25年の表彰を受けた。大学の職務も四半世紀。いろいろな方々の協力で、仕事が続けていられるのだと感謝の気持ちでいっぱい。入職した頃の本学は、まだ建物も古く、見渡す限りどこを見ても工学系を醸し出している男子学生ばかり。女子学生に出会うチャンスなんてほぼ皆無だった。キャンパスに響き渡るの「うおー！」という茶色い声ばかりで、いわゆる「黄色い声？」には程遠く、学生行事の度に本学のカラーは紫紺ではなく、茶色か？と思ったものだ。いまや男子学生も洗練され「さわやかなオン